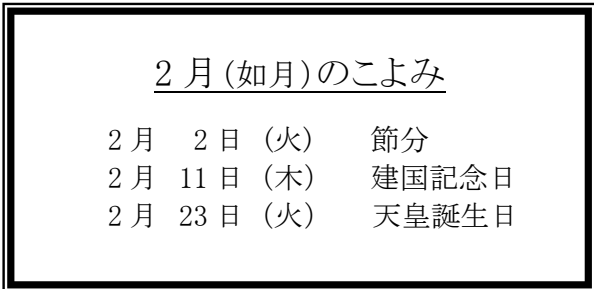
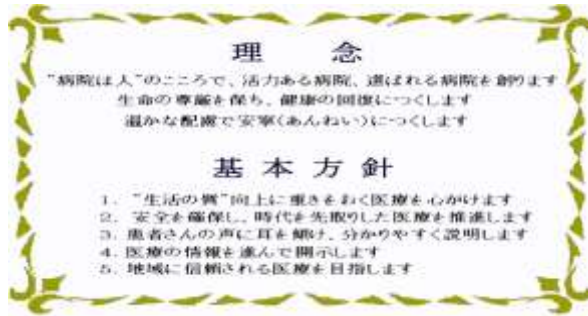


令和 3 年 2 月 1 日 発行
KKR 札幌医療センター
〒062-0931
札幌市豊平区平岸 1 条 6 丁目 3-40
電話 (011) 822-1811
<http://www.kkr-smc.com>

(2021-2 号)



断面で空気をよむ

放射線診断科医長 中村 則子

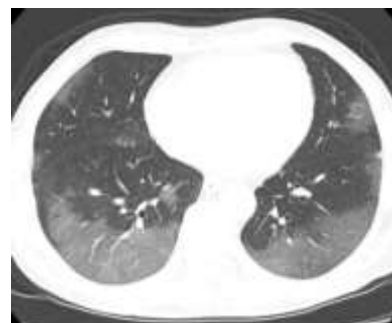
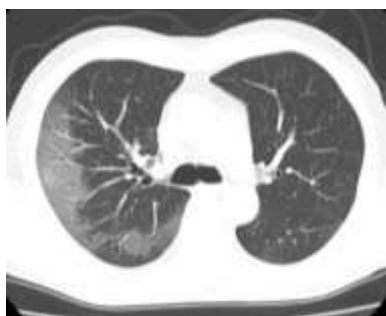
このコロナ禍にあって、感染が疑わしいと当院ではPCR検査とともに胸のCT撮影をセットで行います。新型コロナ感染症では高い確率で肺炎を合併し、たとえ胸の症状がなくてもCTで影がでることがあるためです。こういう場合、当院では5mmと1mmの2種類の厚さの断面像で陰影がないか探します。肺の大部分はきわめて繊細なスポンジ状なので、肺の深い部分は1mmの断面像をもってしてもCTでは細かい正常構造がわからず、ほとんど空気として描出されます。ところが、新型コロナ感染症では肺の深い部分に異変が起こるので、この空気が変わります。CTではこれを読みます。

5mm、1mmと書きましたが、これは横断面像の話で、3mmの厚さの正面像と側面像も作っています。現代のCT検査では、多くの場合、むかしのように1断面ずつ撮っているのではなく、検査する範囲まるごとのデータを得て、見たい方向、欲しい厚みの画像をコンピューターが作りだします。1度の撮影で5mmも1mmも、縦も横も作れるわけです。

肺のCTに限らず、当院のCT検査は全例、診察にあたる担当医以外に放射線診断医も画像を見て、画像診断報告書を作成しています。(放射線診断科ではほかにMRI検査も全例見えています。)

手術などで切除された病変から細胞を調べるのは病理学で、これはいわば本物の世界です。この場合も薄い断面(切片)を作成して調べることになり、本物ですからCTで空気の部分もしっかり異変がとらえられます。病理切片の厚みは数ミクロンなので、CTではかないませんが、読み手はたとえば、肺の深部であれば空気の異変から本物の世界を考えるのです。

先ごろアメリカ合衆国ではバイデン新政権が発足し、新しい時代を迎えました。空気なんか読まないんだらうと思われた先の大統領時代も終焉を迎えたように、この長いコロナ禍にも終わりが来るはずで、その近い未来に向かって、もう一息、がんばりたいものです。



当院は「敷地内全面禁煙」となっております



治験（ちけん）ってご存知ですか？

治験管理センター 玉木 慎也(薬剤師)

1つのくすりが誕生するまでにどのくらいの期間がかかるかご存知ですか？
様々な試験が繰り返し行われ、実に**9~17年**の長い期間を要します。

厚生労働省（国）から「くすり」として認可されるためには、「くすりの候補」について動物で効果や毒性を調べるだけでなく、人での効き目（有効性）や副作用（安全性）を確認する必要があります。人での安全性・有効性について判断することを「臨床試験」といい、厚生労働省（国）から承認をもらうための「臨床試験」を『治験』といいます。

治験は、国が定めた「医薬品の臨床試験の実施の基準に関する省令(GCP)」という厳格なルールに従って実施されます。治験を実施するための条件として

1. 医療設備が十分に整っていること
2. 責任を持って治験を実施する医師、看護師、薬剤師等がそろっていること
3. 治験の内容を審査する委員会を利用できること
4. 緊急の場合には直ちに必要な治療、処置が行えること

が定められており、当院も治験実施施設となっています（なお、当院では健康成人の方を対象とした治験は実施していません）。

また、治験に参加される方の人権、プライバシーについては、GCPのほか、様々なルールに沿って保護されます。

ただ、どなたも自由に治験に参加できるわけではありません。各病院で実施している治験は異なりますし、希望する治験があったとしても、参加するためにはたくさんの基準が設けられており、患者さんの状態が、その一つ一つの基準に合致するかを慎重に確認しながら進めていきます。

治験は、新しい治療を受けるチャンスがあったり、社会貢献につながる、また場合によっては医療費の軽減につながるなどのメリットがある一方、診察回数が多くなったり、患者さんが守らなければならないことが設定されていたり、予期せぬ副作用が現れることがあるなどのデメリットもあります。

担当医師より治験の参加の協力をお願いされた場合はこれらのことをしっかり考えながら参加についてご検討をお願い致します。